

要望書（小牧商工会議所）

1. 市内中小・小規模企業のBCP策定取組み支援について

自然災害等が市内企業の事業活動に及ぼす影響を最小限にするため、事前の備えや事業継続計画（BCP）策定が重要です。しかし、2019年版小規模企業白書によれば小規模企業によるBCP策定の取組みは2.2%と進展していない旨報告されており、国は小規模事業者支援法改正の中で、地域の防災を担う市町村と商工会議所等支援機関による小規模企業への事業継続力強化支援を求めています。

こうしたことから、市内小規模企業のBCP策定支援のため、小牧市と当会議所が協働した「事業継続力強化支援計画」の策定が必要であり、その取組みに向けた第一歩として市内中小・小規模企業におけるBCP策定の実態把握調査を実施していただくための予算措置を要望します。

（回答）

近年、我が国では、地震や豪雨などの自然災害が各地で頻発し、大きな被害をもたらしています。本市においては幸い大規模な災害は発生していませんが、いつ発災してもおかしくない状況を想定し、準備を進めているところであります。

大規模な災害が発生すると、ヒト、モノ、カネ、情報など多くの経営資源が失われ、中小企業・小規模事業者の事業活動の継続に支障をきたす事態が発生します。しかし、事業者があらかじめBCPを策定し災害発生の初期段階での活動を明確にしておくことで、従業員や顧客の生命を守り、企業の最も重要な中核事業を特定しておき、その中核事業を迅速に復旧させることができれば、被災しても損害の発生を最小限に食い止めることが期待できます。本市にとって、市内の中小企業・小規模事業者のBCP策定は急務であると認識しております。

「事業継続力強化支援計画」の策定につきましては、改正小規模事業者支援法の規定により、商工会議所が防災を担う市と連携して計画を作成し、知事が認定することとなっておりますので、貴会議所の主導の下での実態把握調査と計画の策定をお願いすると共に、

本市といたしましては、今後、地域強靱化計画を策定し、併せてBCP策定に伴う防災対策の調整を行う予定であります。また、実態把握調査はBCP策定に必要な調査と考えておりますので、貴会議所に対し、調査の為の補助制度の拡充を図りたいと考えていますので、引き続き協議をお願いします。

2. 小牧ハイウェイオアシス事業に係る計画地周辺道路整備について

小牧ハイウェイオアシス事業は、小牧市東部地域全体の活性化に多大な貢献が期待できる事業であることから、当会議所としても最重要課題と位置づけ、事業運営のための新会社に出資するなど事業開始に向けて鋭意取り組んでおります。

つきましては、計画地周辺の道路整備の一環として、半世紀の長きに亘る地元からの要望でもある県道明知小牧線の南側「大山東大山南線」の西側(市道高畑1号線)への延長を早期に実現いただくよう要望致します。

(回答)

市道大山東大山南線の延伸につきましては、当該路線における歩道設置と併せて、平成29年12月27日付けで大山区より申請をいただいております。翌年3月に整備を行っていく方針を決定し、平成30年度より委託業務に着手し事業化をしております。

延伸整備することにより、周辺道路の混雑解消などの効果を見込んでおりますが、その分、当該路線に多くの車を呼び込むこととなります。当該路線は一部通学路になっていることもあり、歩行者らの安全確保を第一と考え、既存路線部における歩道設置を先行していくことで、大山区長及び役員らにご理解をいただき事業を進めております。

歩道設置及び延伸整備のいずれも用地の取得が必要となり、かつ延長の長い事業であることから、延伸整備の完了までには相当の時間を要することとなりますが、本市としても鋭意事業を推進していく考えでありますのでご理解をお願いします。

3. 観光の振興について

2016年3月に策定された小牧市観光振興基本計画は、対象期間が2016～2020年の5年間であり、来年度(2020年度)が改定取り組みの年度にあたります。

そこで、これまでの取組みを検証し、新たな視点をもって、小牧市のさらなる活性化に繋がる観光振興の方向性を定めていただく上で、次の3つの項目を要望致します。

(1) 小牧山及び小牧山周辺の施設整備について

れきしるこまきを有する小牧山への誘客推進策を模索する中、昨年度の当会議所からの小牧山西側バス専用駐車場整備に関する要望に対し、小牧市の回答では、「同駐車場は観光バスの待機所であり、小牧山来訪者のバス乗降場所とは考えていないため、同駐車場へのトイレ施設整備は考えていない。トイレに関しては市役所1階トイレを利用願いたい」との内容でした。

その回答に関して、

- ① 小牧山およびれきしるこまきへの誘客推進には、旅行業者に選ばれることが必要との認識から、待機中のバス乗務員等への配慮
 - ② 小牧山南側のバス乗降ロータリーの活用を今後推進した場合のトイレ利用に関し、市役所本庁舎1階トイレでは、小牧山側からの道路横断が必要
 - ③ 土曜・祝日は閉庁で本庁舎へ入るためには、南側通用口まで行く必要があり、トイレ利用者にとってわかりにくく不便
- の3点に対して検討することが必要と考えます。

そこで、小牧山および小牧山周辺の価値・魅力を高め、また、旅行業者が小牧山を観光コースに取り入れやすいように、小牧山西側バス専用駐車場のトイレ等施設整備と同駐車場から小牧山への歩道整備を要望します。

(回答)

史跡小牧山では、平成31年4月25日に小牧山城史跡情報館れきしるこまきがオープンし、その歴史や魅力、発掘調査の成果などを市内外に発信するよう努めております。

また、今後は計画的に山頂部の石垣や園路の整備などを順次進めてまいります。

多くの方が史跡小牧山に訪れ、楽しんでいただくためには、こうした史跡内の整備だけではなく、史跡周辺の環境整備も重要であると考えております。

小牧山西側バス専用駐車場は、小牧山北駐車場とともに小牧山に隣接する駐車場として利用いただいておりますが、西側駐車場にはトイレがなく、バスの乗降客や乗務員の方々にご不便をおかけしております。また、西側バス駐車場とれきしるこまきや大手道との位置関係、西側バス駐車場にある虎口からの登山道や県道の安全性など、西側バス駐車場から史跡内へのアクセスにも課題があると認識しているところであります。

今後は、史跡小牧山への来訪者の増加に合わせて、より気軽に訪れることができる場所とするため、西側バス専用駐車場も含めた史跡小牧山及びその周辺エリア全体で、案内表示や看板の設置、トイレなどの便益施設や安全で快適な園路、バスの駐車場や停車場などの整備について、調査、検討するよう取り組んでまいりたいと考えております。

(2) 観光誘客推進の施策について

観光推進において市外からの来訪者増加を図るのであれば、旅行業者による小牧に立ち寄るツアー商品の企画立案への支援に繋がるインセンティブ設定等、新たな助成施策の実施を要望致します。

また、小牧児童館跡地（現在は図書館駐車場）でのフードコートや土産店など飲食・物販の拠点整備を合わせて要望致します。

(回答)

近年、観光需要に関する価値観の多様化からホームページやSNSから情報を取得し旅行を企画する個人旅行が多くなってきています。反面、旅行業者の企画によるツアーも根強い人気があり、本市においても、市外からのツアー来訪者等を増加させるため、旅行業者に対するインセンティブとして、観光協会が平成28年度に、

小牧市へのツアーを企画し来訪した場合に5,000円を助成する事業に支援いたしました。新たな助成施策につきましては、現在、観光協会から改めて集客のためのインセンティブ事業の提案を受け協議をしているところであり、早ければ来年度から実施したいと考えています。

また、今後、小牧市観光振興基本計画が2020年度末をもって計画期間の終了を迎えるため、改定に向け準備を進めているところであり、これまでの取り組みについて検証し、今年度オープンした小牧山城史跡情報館、建設が進められている新図書館やこども未来館など史跡小牧山を取り巻く環境の変化を踏まえ、小牧市のさらなる活性化につながる観光振興を進める計画にしなければならないと考えております。観光拠点としてご提案の小牧児童館跡地（現図書館駐車場）につきましては、全庁的に跡地利用を検討しているところであり、ご要望いただいた意見も含め検討を進めてまいります。

なお、観光振興基本計画の策定にあたっては、商工会議所関係者、知識経験者、観光事業者等のみなさまによる観光振興基本計画の策定委員会を設ける予定でありますので、商工会議所関係者のみなさまにおかれましても、忌憚のないご意見をいただきご協力をお願いいたします。

(3) 観光資源としての伝統ある文化財の保存と文化伝承の支援強化について

秋葉祭の山車4台と小牧祭の山車1台については、小牧市が有形民俗文化財と指定し、維持管理費の一部補助金を交付されています。しかしながら、山車自体が老朽化し、修繕費も高額で、実際には所有団体が自分たちで最低限の修繕のみ行うなど維持管理費が賄っていないのが実情です。

特に、本年より始まった新たな「こまき令和夏まつり」と250年以上の伝統・歴史を持つ「秋葉祭」が同日開催され、多くの人に山車を知っていただく機会となりました。

つきましては、多くの来訪者に感動を与えられるような文化財としての山車保存と文化伝承の観点から、助成制度創設・増額など山車5台の維持管理への支援強化に繋がる施策を要望致します。

す。

(回答)

秋葉祭の山車4輦と小牧祭の山車1輦は、経年劣化や、祭などの使用による損傷など、小牧山車保存会が保護、保存に大変苦勞をされておられます。

そのため、市としましても、山車の適切な保存に関して小牧山車保存会と連携して取り組むよう努めるとともに、修繕の必要が生じた場合は、できる限り速やかに対応いただけるよう、これまでも小牧市指定文化財補助金や(一財)自治総合センターによるコミュニティ助成事業助成金など、様々な補助制度により支援をさせていただいております。

現在、小牧山車保存会からは補助制度の新設、拡充などのご要望はいただいておりますが、今後も、市の補助制度を継続するとともに、国や県、その他関係機関からの補助金を積極的に活用し、山車の保護、保存と小牧山車保存会の活動を支援するよう努めてまいります。

また、観光振興の観点から、今年度、秋葉祭にあわせて「こまき令和夏まつり」を開催し、市内外の皆様に秋葉祭を知っていただく機会となったと考えており、まつり全体として警備や人の流れの誘導など協力して進めてきたところであります。

来年も引き続き、山車保存会の皆様と協力して今年度のまつりを検証・改善し、観光の資源としての価値を高めていきたいと考えております。

4. ドライブレコーダー設置補助金創設について

昨年度の当会議所からのドライブレコーダー設置補助金創設要望への回答では、「車載ドライブレコーダーの市場価格は1万円を切るものから2万円強の価格帯が中心で、設置コストも比較的安価である。また、現在、市民向け補助金制度がないので、事業者向け補助金制度の優先設置は市民へ説明ができない。よって事業者向け補助金制度創設は今のところ考えていない。」との内容でした。

この回答に関して、

- ① 費用面において、事業者としてはトラブル時の従業員等の立場を擁護する点から、録画記録が重要であり、画質が良く、前方・後方の2方向装着などの場合は、取付け工賃を含むと3万円～5万円程度要する
- ② 市民向け補助金制度が無いために事業者向け制度が設置できないなら、市民と事業者の双方を対象にした制度創設を検討願いたい
- ③ 最近ではあおり運転から傷害事件へ発展する事案なども増え、その際はドライブレコーダーの映像が被害者の立場を守ると共に加害者の責任追及に大きな役割を果たしており、設置意識が高まっていること
などが挙げられます。

事業用車両は一般市民所有の自家用車より日常的な使用頻度が高いと思われ、昨年8月に小牧警察署・小牧市・当会議所の三者で締結した「ドライブレコーダーの記録映像の提供に係る協定」の主旨からも、市民のみならず事業者の積極的な事故防止や防犯への協力は、安全・安心なまちづくりや交通死亡事故を無くすためにも必要です。

つきましては、昨年度要望への回答を踏まえ、市民と事業者双方を対象にしたドライブレコーダー設置補助金制度の創設について要望致します。

(回答)

ドライブレコーダーの役割は、事故が発生した際に、その映像や音声を活用するなど事故原因を究明するものであり、直接的に交通事故を防止するものではありません。しかしながら、副次的な効果として運転状況が常に記録されていることから、自ら安全運転意識を高めるといった効果や「あおり運転」を防止する効果も期待できます。

ドライブレコーダーの装着率については、大手損害保険会社が実施した調査では、平成29年の15.3%に対して平成30年では31.7%と大きく上昇しております。また、昨年10月には、市職員による

市内の関係事業者へのドライブレコーダーに関する聞き取り調査を実施しましたが、「あおり運転に関する報道や安価になってきている影響から、昨年にも増してドライブレコーダー取付依頼が多く、中には欠品となっている商品もある」とのことでした。機器の認知度及び設置機運の双方が高まってきていることに加え、安価になってきていることから、敢えて市が支援をするまでもなく、今後も設置率は高まっていくものと考えております。

限りある予算内で、安全安心なまちづくりに資する事業展開の優先順位を考えた場合、本市としては防犯灯のLED化や防犯カメラ設置を先に進めたいと考えます。市では今年度3月までに通学路を中心とした見守りの目が手薄となる場所に100台の防犯カメラを設置します。さらには、事業者の方々を対象とした防犯カメラ設置補助制度及び市民向けの防犯カメラ設置の支援を継続してまいりたいと考えております。

いずれにしましても、安全で安心なまちづくりは行政だけでなしえるものではなく、小牧警察署や関係団体、さらに、市内事業者の方々のご協力がなければ達成できない目標であります。今後もすべての市民の皆さまが安全にかつ、安心して暮らすことができる小牧市実現に向けた、より一層のご理解とご協力をお願いします。